

# はつうま通信

2025年 5月20日 発行

## はじめに

いつになれば融けるのか…という程堆く降り積もっていた雪も GW にはほとんど融け去り、ようやく春らしい陽気に包まれる頃となってきた。4月から始まった第5期も、「〇〇おはよー！」と交わし合う朝の挨拶に、だんだんときこちなさがなくなっていき、少しずつ留学生同士の緊張も解けてきたように感じる。

今年度も、留学生は受入家庭のある地区に分かれて、春祭りに参加をさせていただいた。私も自身の在所である百瀬の獅子方として春祭りに参加をし、今年で2年目を迎えた。これまで、他の地区での稽古にも留学生の付き添いとして参加をさせていただいていたが、私はこの稽古場の風景、雰囲気が多量に好きだ。

稽古の日が近づくにつれ、私の緊張は最高潮に達する。「今の自分にあの場に上がる資格があるのか？」と自問自答を繰り返し、不安を拭い去ろうと練習する。「これで大丈夫だろう！」と思って稽古場に臨んでも、思うようにはなかなかいかない。芸能の世界の奥深さを痛感する。

稽古場にはたくさんの師が存在する。大人から子どもへ、子どもから子どもへなど、その在り方は様々だ。その中で人に揉まれ、汗を流す。

留学生も、それぞれの場所できつとそのような経験をさせていただいているのだろう。祭りが近づくにつれ、センター各所では笛の音が響き、時間の続く限り練習に励む姿が見受けられた。こうした経験が、利賀に対する里心を醸成する大きな要因の一つであると、私は確信している。

今年度も、経験や知識の浅い留学生に対し、限られた時間の中でたくさんの事を学ぶ機会を与えてくださった各地区の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

ありがとうございました。

邑上 貴厚



雪が融けたので  
バス停を設置しました。



ロゲイニングに参加！

## 【活動日程】

- 4/28 センター活動開始
- 4/29 地域散策
- 5/4 春祭り参加  
(上村・坂上・阿別当地区)
- 5/5 春祭り参加(百瀬地区)
- 5/7 ホームステイ開始
- 5/16 センター活動開始
- 5/17 デイキャンプ
- 5/18 味噌仕込み
- 5/18 田の作業
- 5/20 畑の作業



## 4/29 地域散策



今年度最初の歩く活動として、センターのある上利賀地域を散策しました。3チームに分かれ、地図を持ってセンターを出発。各地のチェックポイントに設置された、利賀に関する問題を探し、回答していきます。分からない問題などは地域の人に聞き込み！春の上利賀を歩き回りながら、地域のことを知ることができました。ご協力していただいた皆さん、ありがとうございました！

センターに戻った後、各チームの回答を発表し合います。上利賀の大きな地図に書き込みながら成果を共有。これからも、発見したものを自由に書き込めるようにしていく予定です。

## 5/4～5 春祭り参加

利賀村の伝統行事である春祭りに参加しました。4月中旬からホームステイ先の地区の一員として獅子舞の練習に参加し、センターでも自主練に励む様子がありました。当日は、獅子取り、笛・太鼓、旗持ちなどの役をいただき、地域の方々や関係者の皆さん、修園生の皆さんなど、様々な人たちと交流しながら地区内を練り歩きました。それぞれの練習の成果を発揮し、利賀村でしか味わえない一日を味わいました。

各地区の皆さん、ありがとうございました！



## 5/10 ロゲイニング参加

利賀地域で行われた「利賀天空ロゲイニング 2025」に3チームに分かれて参加しました。「僕は〇〇食べたい」「この橋はあっちにあるよ！」とマップを見ながらポイントを回り、それぞれ高得点を目指しました。指導員含めチームごとに利賀の楽しみを再発見できる機会となりました。



### みらい留学日記

「ししまい」ぼくは、上村のししまいでしし取りをしました。けっこう多くの出番があるので、きんちょうしました。ぼくは、かまをやったんですが1回目はちょっと失敗してしまいました。2回目はやるえんもくをまちがってしまい、くやしかったです。3回目はまあまあでした。そして、さいごの4回目は、一生けん命やって、まわりの人からかっこよかったといわれてうれしかったです。(5/6 おうき)



「おもしろロゲイニング」この日は、ロゲイニングでした。チーム名は「みんなのアイドルゆうせいたんとゆかいななかまたち」で、たかさんとゆう兄とけい兄と一緒にチームでした。最初は本気で行こうとしましたが、始まると楽しくなって、そんなの忘れてしまいました。一番心に残ったのはトンネルです。とっても長くて、先が見えなくて息が疲れましたが、先っぽのゴールに着いた時は、やっと終わったと思い、タイムスリップしたようでした。…(5/17 ゆい)





## 5/17 デイキャンプ

キャンプ活動の導入として、火起こしに挑戦しました。基本的な火起こしの方法をミーティングで教えてもらい、2人1組で薪割りと火起こしに挑戦。継続生が「薪はもうちょっとあった方がよいよ」と教える姿もありつつ、協力しながら飯盒でお湯を沸かし、お茶を淹れておやつと一緒にいただきました。

冬に行う雪中キャンプまで、これから一年を通して自然の中で過ごすスキルを磨いていきます。



## 5/18 味噌仕込み

センターで食べる味噌の仕込みを行いました。今年も地域の方を先生に招いて大豆、米麹、塩を材料に作ります。力仕事である茹でた大豆をつぶす作業も、潰した大豆を塩、米麹と混ぜる作業も人気で「次、やりたい!」と、代わる代わる取り組んでいました。混ぜ切って味噌の見た目になっても味は塩辛い大豆のままです。発酵が終わり、今回仕込んだ味噌を食べる瞬間が待ち遠しいです。



## みらい留学農事歴 🌱

4/20 畑:苗作り

5/18 田:田起こし

5/20 畑:畑起こし

【畑】4月の半ばに雪がとけ、畑の作業は4月20日からスタートしました。苗づくりは、ポットに土を入れ、きゅうりや枝豆、トウモロコシなどの種をまきました。当番の留学生が水をやりながら、皆で成長を見守っています。鍬を使って行う畑起こしの作業は放課後に行いましたが、今年は少し土が固く大変な作業でした。「固いよ～」と言いながらも、田起こしを経験した後だったので、皆スムーズに作業を進めていました。



【田んぼ】今年度の田の作業が、5月18日にスタートしました。山村留学での田の作業はできる限り手作業で米作りを行うことで、先人の苦労や日々当たり前のように食べている米に対する価値観の変容を目的としています。

最初の作業は「田起こし。」全員で石拾い、肥料蒔き、鍬での起こし作業を交代しながら3時間程の作業となりました。途中「つかれたー!」「掌にマメができて痛い…」等、手作業での苦労を実感している子どもたちでしたが、互いに声を掛け励まし合いながらなんとか作業を終えました。

米作りの作業は、八十八あると言いますが、留学生が体験できるのは多くてもそのうちの10程度。一つひとつの作業を大切にしながら、今年も実り多き収穫を迎えられることを願っています。



5/6 (火) 曇り 気温：10.5℃ 【サワガニ】

- ・ここら辺の地域では淡水域で一生を過ごす唯一のカニ。
- ・寄生虫がいる可能性があるため、生で食べてはいけません。

子どもたちが発見！

数日飼ったあと、調理して食べていました。

5/18 (日) 晴れ 気温：18℃ 【スイバ】

- ・茎を吸うとイタドリのような酸っぱさと微かな渋さがある。道端にあるのでちょっとしたおやつや水分に。

## 保護者だより

今年度からお世話になっている高林佑衣の母です。

留学に参加してから1か月が経ち、佑衣がいない生活にも慣れてきました。

娘が参加させていただいたきっかけは、本人がテレビで山村留学特集を見たことです。「私もこういうのに参加してみたいな」娘はそう思ったようです。そして夫が.find.てきたのが南砺利賀みらい留学センターでした。その後何度か夏や冬のキャンプに参加させていただきとても楽しかったようで、留学することを決めました。

この留学のいいところは、大自然に囲まれ地域の方とのつながりの中で小学校生活を送れるなど様々あります。私は、それに加えて、7～9年生の大きなお兄さん、お姉さんと運動会、委員会活動をしたり、センターでの生活を送れることも挙げたいと思います。HPにアップされる娘の頑張っている姿や笑顔の写真を見ると1か月でずいぶんたくましくなったなと感じます。

娘の長所は何にでも積極的に関わり楽しめることです。様々な方のお世話になりながら思いっきり留学生活を楽しんでほしいです。

唯一の気がかりは、寝相と寝起きが悪いことでしょうか。同じ部屋の芽生さんや指導員の皆様、ホームステイ先の方にご迷惑をかけていないだろうか、皆さんびっくりしていないだろうか、自宅でぽっかり空いた娘が寝ていたスペースを見て、ふと心配になります。

親子ともども今後ともどうぞよろしくお願いします。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝

### 指導員よもやま話

＝＝＝＝＝＝＝＝＝



休暇を利用して立山ヘスキーツーリングをしてきました。元来日焼け止めが嫌いな私はこの時も日焼け止めを塗らずにいたのですが、眼前に広がる絶景やダイナミックな滑走体験と引き換えに、翌日から今まで体験したことのないレベルの日焼け顔に…後悔先に立たずとはまさにこのことですね…反省します。(邑上)



阿別当の獅子舞練習から歩いて帰る道々、利賀川沿いの小さな水路(?)を留学生と探検しました。植物を観察し、蔓をかき分け、サワガニやカナヘビと一緒に探す。新しい景色がたくさん見つかる宝物のようなひとときでした。(松浦)



仕事でもプライベートでも、夏の山行計画を立てる時期。とめどなく溢れる「やりたいこと」を地図に書き込んでいく瞬間がたまらない。まだ見ぬ世界への出会いを期待しながら机上で冒険心を募らせるのもまた、山へ挑む魅力のひとつ。(山口)



学生時代はバーナーとガス缶と便利なものを使うか、出来る人に頼りきりだった調理だが今回のデイキャンプでは自力で火おこしを行った。無事に成功した。しかし、薪の量や組み方等、改善点も見つかったため次が楽しみだ。(高倉)